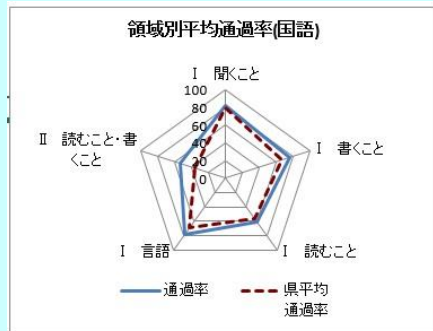
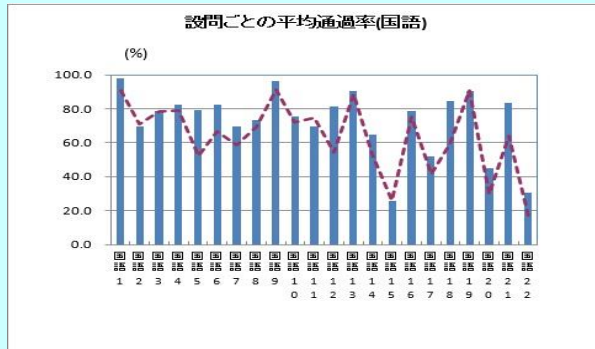


## 「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 72.7%, 県 63.7%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



## 本年度の結果について

### ○全体的な傾向

国語科の結果において、タイプⅠは75.9%、タイプⅡは52.9%の通過率となっている。前年度に比べて、タイプⅠ・タイプⅡ共に通過率が下がっている。特に、タイプⅠの読むこと、タイプⅡの読むこと・書くことの力をさらに付けていく必要があると考えられる。

### ○昨年度の課題への取組の成果

国語科において、目的に合わせてキーワードを探しながら資料や問題文を読んだり、条件に合わせて文章を書いたりする活動を設けることにより、何とか解答を導き出そうとする意欲が見られた。しかし、中心となる語や文の把握、適切な情報の取り出し、理由や事例を挙げて記述することに課題がある。

## 重点課題

### 【課題1】 中心となる語や文の把握に課題がある。通過率 (25.5%)

- パラリンピックがもたらした恩恵を本文から読み取るのではなく、文字数だけの情報で本文から探している。

### 【課題2】 情報の取り出し・理由や事例を挙げた記述に課題がある。通過率 (30.4%)

- 消去法で理由を書いており、当てはまる条件をきちんと書けていない。
- 4月に種をまき、9月に咲いているという条件に絞れていない。
- 書く条件に合わせ、論理立てて記述できていない。

## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

### 【課題1】

- 解答欄だけを見るのではなく、解答した後に文としてつながるか、見直す習慣を付ける。
- 接続詞の意味を押さえた指導をする。
- 低学年のうち、主述が正しい記述ができるよう、スキル学習をしておく。
- 中・高学年では、児童相互で推敲を意図的に取り入れ、言語感覚を高める。

### 【課題2】

- 総合的な学習などで、図やグラフを入れた評価物を作る。
- 算数科や社会科で表やグラフの読み取り方をしっかり身に付けさせる。
- 書いたら必ず読み返す指導を徹底する。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 調査問題			4・5年生 調査問題	4年生 H28「基礎・基本」
目標値			50%			4年55%・5年55%	60%
実施後数値							

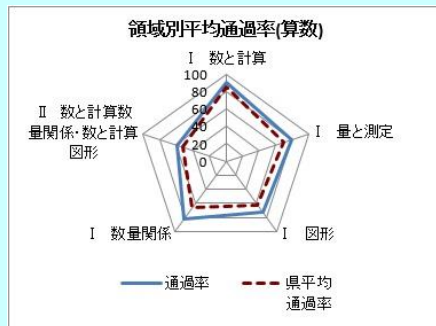
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 調査問題			4・5年生 調査問題	4年生 H28「基礎・基本」
目標値			55%			4年60%・5年60%	65%
実施後数値							

# 指導方法等の改善計画について [算数科]

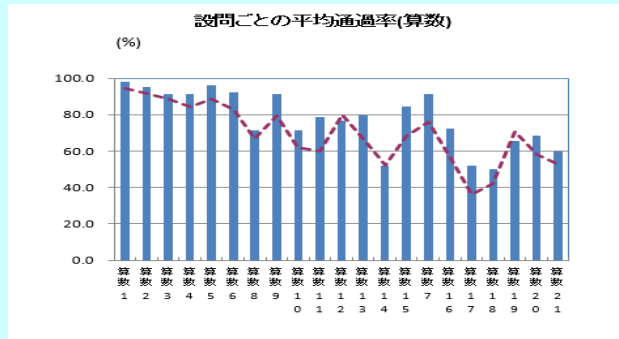
海田南小学校

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 77.5%, 県 69.4%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向  
算数科の結果において、タイプⅠは83.3%、タイプⅡは59.2%の通過率となっている。前年度に比べて、タイプⅡは5ポイント向上している。課題として、折れ線グラフと棒グラフから特徴や傾向を関連付けて読み取ること、作図に用いられている図形の約束や性質の理解が定着していないことが挙げられる。

○昨年度の課題への取組の成果  
授業において、ペアトークを毎時間意図的に仕組み、自分の考えをもち相手に伝える場を設定したり、個人の考えをノートに書く時間の確保をしたりしたことで、論理的に話すことや自分の考えを組み立てることができるようになってきた。しかし、算数的活動を仕組み際、操作の意味づけが不足しており、知識・技能と意味理解が関係付けられていないという課題がある。

## 重点課題

- 【課題1】折れ線グラフと棒グラフの関連付けに課題がある。通過率 (50.0%)
- ・「一人が持ってきたアルミ缶の個数」の求め方が分からない。
  - ・折れ線グラフと棒グラフを関連付けて、7月に一人が持ってきたアルミ缶の割合が多いことを読み取れていない。また、それについて論理立てて説明できない。
- 【課題2】ひし形の判断をコンパスの性質を利用して判断できていない。通過率 (52.0%)
- ・ひし形の定義(対角線が垂直に交わる。4辺の長さが等しい。)は分かっているが、コンパスの「等しい長さを測り取る」という特質を活用して、ひし形(4辺の長さが等しい)の判断ができていない。

## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

- 【課題1】
- ・授業で2つの資料(折れ線グラフ、棒グラフ、表など)を関連付けて読み取るような学習を行う。
  - ・比べる視点をそろえて考えるような学習を仕組む。
  - ・引き続き、ペアトークを毎時間意図的に仕組み、自分の考えをもち相手に伝える場を設定したり、個人の考えをノートに書く時間の確保をしたりする。
- 【課題2】
- ・円を描く道具としてのコンパスの扱いでなく、コンパスのいろいろな用途を学習し、実際に活動させる。また、算数的活動を行う際、何のための活動か児童に理解させてから行う。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 調査問題			4・5年生 調査問題	4年生 H28「基礎・基本」
目標値			70%以上			4年70%・5年75%	75%
実施後数値							

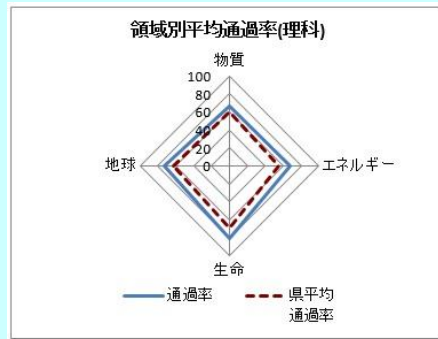
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 調査問題			4・5年生 調査問題	4年生 H28「基礎・基本」
目標値			70%以上			4年70%・5年75%	75%
実施後数値							

# 指導方法等の改善計画について [理科]

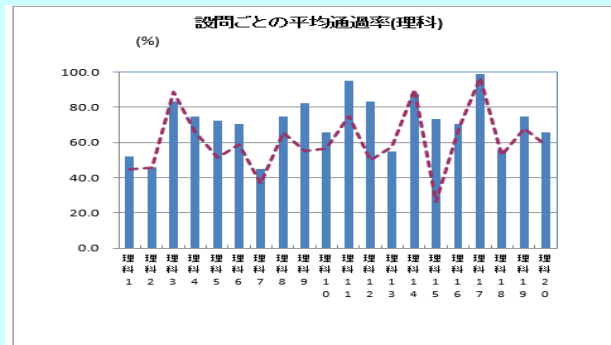
海田南小学校

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 71.3%, 県 60.6%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 全体的な傾向  
理科の結果において、タイプⅠは75.4%、タイプⅡは63.7%の通過率となっている。前年度に比べて、タイプⅠ・Ⅱ共に通過率が下がっている。情報の多い問題文の読み取りに課題があり、物質の磁石と電気に対する性質、物の重さと体積の関係が理解できていない。
- 昨年度の課題への取組の成果  
観察・実験をする場面で、観察・実験器具を一人一人が操作できる時間を設けたり、グループ活動をする際には、必ず全員が操作できるようにしたりすることで、実感を伴った理解が得られた。しかし、物質の磁石と電気に対する性質、物の重さと体積の関係など、科学的事象を日常生活に当てはめて考えることに課題がある。

## 重点課題

- 【課題1】物質の磁石と電気に対する性質 通過率 (45.1%)  
・磁石に付くものと、電気を通すものとの材質が理解できていない。
- 【課題2】物の重さと体積の関係 通過率 (46.1%)  
・同じ重さでは、容積が小さいものの方が重いことが理解できていない。

## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

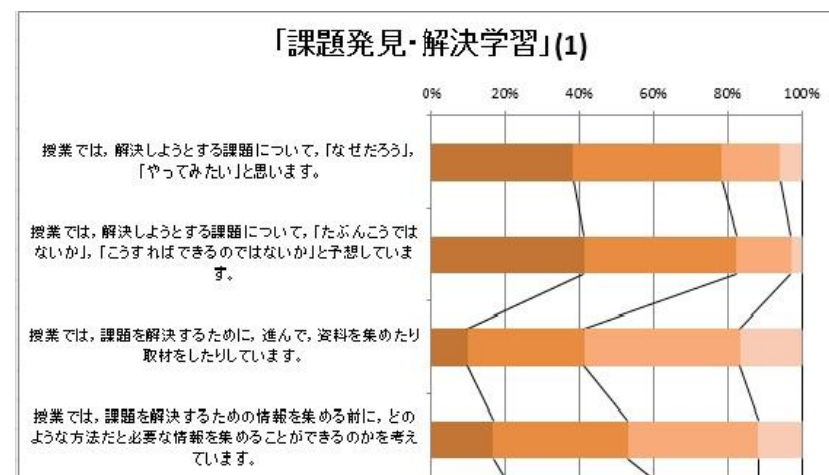
- 【課題1】  
・課題意識の持たせ方 (磁石に付くものと付かないものを分類、電気を通すものと通さないものを分類)  
・実験方法を明確にし、実験した結果を表に整理してまとめる。  
・結果から磁石や電気の性質について考察する→ (磁石に付くものは鉄であること、離れていても働きがある。)(電気を通すものは金属であること、離れていたら働かない。)
- 【課題2】  
・二つのものの関係を調べる時には、一方の条件は揃える (同じにする) こと。「物の重さの違いを調べる時には、それぞれの体積を同じにすること」このような実験の仕方を繰り返し指導し、実験方法として身に付けさせる。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 調査問題			4・5年生 調査問題	4年生 H28「基礎・基本」
目標値			65%			4年65%・5年70%	70%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 調査問題			4・5年生 調査問題	4年生 H28「基礎・基本」
目標値			65%			4年65%・5年70%	70%
実施後数値							

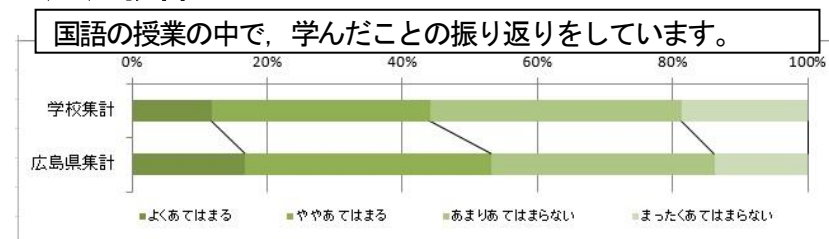
# 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）

## (1) 生活・学習



児童の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
授業では、課題を解決するために、進んで、資料集めたり取材をしたりする学習において取材面の弱さがある。 肯定的評価 (41.2%)	インタビュー（聞き取り）をする学習過程を意図的に作る。 ・米づくりでJAの中村さんへのインタビュー。山海島での親の思い。(5年総合的な学習) ・おいしいご飯の炊き方など家庭での工夫。(家庭科) ・買い物調べ(インターネット 図書 インタビュー)	5 6 3	50%	・ノートまとめ ・ワークシート ・作文, 日記	2学期末		

## (2) 教科



	児童の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	・振り返りを、毎時間どの単元でも仕組むことはできていない。 ・児童にとっては、習慣化されていない。 肯定的評価 (58.8%)	・単元の終わりにはノートに振り返りを書くようにする。 ・振り返りの書き方の指導をする。 ・ノートに書くことができない場合でも口頭で振り返る習慣を意識付ける。	5	65%	アンケート ノート	2学期末		
算数	・ほとんどの児童は、やり方を理解しており、数直線を使った学習をすることができている。 ・どの数をどこに書くのか等、書き方や数の関係が分からないために図や絵の描き方ができない。 肯定的評価 (71.6%)	・児童のノートや板書の良い例をモデルとして紹介する。 ・線分図や数直線等を用いた学習活動を意識的に取り入れる。	5	75%	アンケート ノート	2学期末		
理科	・説明することに自信のない児童がいる。 ・実験結果や観察したことをもとに、筋道を立てて考えにくかったり、関連付け答えを導くことが難しかったりする。 肯定的評価 (53.9%)	・ペアトークやグループでの意見交換をする場面を増やしていく。	5	65%	アンケート ノート	2学期末		

